

江南市廃棄物減量等推進協議会 平成 29 年度第 2 回会議（議事要旨）

●日時 平成 29 年 10 月 30 日（月） 午後 2 時～午後 4 時 20 分

●場所 江南市消防署 3 階 大会議室（西・東）

●出席委員（20 名）

会 長 岩 井 喜 美 子	副会長 前 田 幸 男
委 員 山 崎 博 之	委 員 坪 内 三
委 員 滝 充 宏	委 員 望 月 晴 夫
委 員 苅 谷 有 朗	委 員 藤 田 泰 雄
委 員 堀 場 敏 之	委 員 政 木 幸 吉
委 員 黒 岩 弘 子	委 員 菱 川 保 子
委 員 川 合 龍 司	委 員 古 田 一 二 三
委 員 小 林 弘 子	委 員 松 浦 大 介
委 員 馬 場 智 紀	委 員 尾 関 雅 宣
委 員 阿 部 枝 美 子	委 員 澤 野 康 樹

●欠席委員(10 名)

委 員 奥 田 祐 子	委 員 三 ツ 口 和 男
委 員 山 口 幹 夫	委 員 岩 田 芳 尚
委 員 小 澤 弥 生	委 員 岩 田 節 明
委 員 伊 神 卓	委 員 牧 田 二 郎
委 員 水 野 祐 助	委 員 重 野 英 明

●事務局

環 境 課 長 阿 部 一 郎
環 境 課 主 幹 菱 川 秀 之
環 境 課 副 主 幹 青 山 守
環 境 課 副 主 幹 牛 尾 和 司
環 境 課 主 事 小 塚 洋 平
環 境 課 書 記 高 田 奈 美

●会議経過

■あいさつ等

■議題1 ごみ減量 57 運動の見直しについて

(事務局) 資料1 ページについて説明

(委員) 57 運動については、20 年以上経過しているということだが、57 という意味や目標と現実がどうなっているのか。環境を考えた場合は、ごみに特化したものではなく、環境全体を考えたネーミングに変更したほうがよいのではないかと。環境目標にある、青い地球をまもろうというほうがよいと思う。市民意識の再構築をしたほうがよいのではないかと。

(委員) 平成9 年度に 57 運動がはじまった。区長をやっていた平成10 年に市長と環境課長から 57 運動についての説明会があり、現在までずっと 57 運動ということで継続してきた。57g、卵一個分の減量で 4R をすすめていくものだが、4R を見直し、意識を変えていくということが大切だと思う。名前を変えるのではなく、もう一度スタートに立ち、4R を見直したほうがよいと思う。その上で、名前を変えるかどうかを考えていけばよいのではないかと。

(委員) なぜ見直すかについて、理由を知りたい。すでに目標を達成したので、見直したいのかまだ達成していないので見直したいのか方向性がみえないため、意見がいえぬ。

(事務局) 江南市の戦略計画の会議の委員から、57 運動について、いつまで 57 運動を行うつもりなのかという話がでて、行政として今後どうしていくかを考えていくために協議会で諮った。

(委員) 57 運動の目標は達成できていると思っているので、温暖化なども含めた広義なネーミングにして今後は活動していくのがよいと思う。新しい江南市の環境像を提案したい。

(委員) ごみ減量 57 運動は長年やってきたが、今の世代に 57 運動の「57」が合わなくなってきているのではないかと。57 運動は中身が大切であり、1 回目の会議の後に市内スーパーでポケットティッシュを配ったが、そこにいた人にしか啓発できなかった。広報への掲載もあるが、読まない人もいる。どのように啓発を展開していくかが大切であり、考えていく必要があると思う。

(委員) この時代にごみ減量を考えることに疑問がある。省資源、省エネが叫ばれている時代にごみ減量だけに特化していることに違和感があり、もう少し広域的に考えてもいいのではと思っている。少なくとも行政としてどのようにもっていくかを考えていったほうが良いと思う。考えていくうえで、柱の一つにごみ減量があるのは確かだと思う。

(委員) 57 運動のネーミングは知っていたが、実際に事業を行っていることは最近まで知らなかった。会議に出るようになり、事業を知ったが達成されているかどうかがよくわからない。57g を目標としているのはわかるが、達成されているのか、

現状はどのくらいなのかがわからない。もう少しで達成できているのかもわからず、そもそもの始まりは焼却場の延命化を目的としていたようだが、現在も焼却能力の限界を超える恐れがあるのかどうかもわからない。まだそのような恐れがあるのであれば、そこだけに焦点をあてればよいのではないかと思う。ごみを減らせばよいのはわかっているので、いろんな手法を組み合わせるって行くのがよいと思う。

(事務局) 数字が多すぎるとわかりづらくなるのではないかという懸念からあまりたくさんは掲載していないが、それが逆にわかりづらくなっていたのであれば、申し訳ない。以前はプラスチック類も可燃ごみとして燃やしていたが、平成12年から資源として回収しており、それもあって当時と同じように考えるのが難しいと思う。

(委員) 57gというネーミングにとらわれすぎていると思う。人口が減っている分、一人当たりのごみの量は増えていると思う。今現在の一人当たり出ている量から10%の減量を目指すほうが実情にあっているのではないか。なぜごみ減量をしなければいけないかを見直すことが大切だと思う。

(委員) 江南団地では若い人が多く住むところでは資源ごみの回収日にはごみが多い。ごみというより、飽きたらいらぬという形で捨てられている。可燃ごみでも若い人や外国人の多く住むところではごみが多く排出されている。若い人たちに、ごみ減量を説明しようとしても、57gといった目標となる数値がないと説明することが難しく、若いひとたちに何かわかる形で考えていく必要があると思う。

(委員) 分別指導員として立っていて感じるのは、若い人のほうがしっかりしているような気がする。中高年のほうがわかっていて分別をあまりしていないように思う。

(委員) 若い世代の意見ということですが、周りの人はしっかり分別していると思う。ただ、ごみの減らし方を知らない。最近マイボトルを持ち歩くことがはやっているが、ごみ減量のためではなく、はやりで持っていることがカッコいいからやっていると思う。なぜごみを減らさなければならぬのかもわからないのではないかと思う。言葉に敏感な世代なので、カッコいいキャッチコピーを江南市独自の造語でもよいのでつくとよいと思う。

(委員) 57運動のネーミングが、いつどのような場でできたのかはわからないが、江南市全体で取り組めるようなものがないのではないかと思う。例えば、ネーミングが採用されたら表彰されるといったようなことでも良いかと思う。

(委員) 平成8年度のころ、自分や周りの人もごみを燃やしており、平成17年度に当時の区長がごみ減量の説明会を開いたが、すぐにはごみを燃やすことをやめる人は少なかった。少しずつ資源ごみとして分別していく活動が根を張っていった。外国人向けの持ち去り禁止看板は文字が消えてしまっているので、その上にごみ減量への協力を呼びかけるような文言をはってはどうか。

- (委員) 以前、市外に住む知り合いから 57 運動について、10 年も 20 年もごみ減量に特化するなんて、江南市はごみだらけなのかと言われた。ごみを減らすことはどこの市町でも行っているが、それを表に出している市町は他にないのではないかととも言われた。それを受けて、ごみに特化しない、江南市のイメージとなるようなものを考えたほうがよいのではないか。
- (委員) 江南市はふじかちゃんがいるので、ふじかちゃんを使用した歌をつくり、ごみ減量を啓発してはどうか。
- (事務局) ふじかちゃんのイメージキャラクターを使用して、歌をとということだが、始業前にごみ減量の歌が庁内で流れている。市民の方が来る前に流れているので、職員はよく知っている。
- (委員) その歌をごみ収集車が流せばよいと思う。夕焼け小焼けよりもよいのでは。
- (委員) 今回の議題としてあげられたのは、いろんな方向からの意見がほしかったのか、具体的な課題が何かあって解決のためにあげたのか教えてほしい。総合計画の会議で指摘されたということだが、それに対して環境課ではどのような考えをもっているのかがわからない。そもそもの課題は何か。結局方向性がわからない。もともと焼却場の延命が喫緊の課題としてあったということ、まただいたいグラム数を計算したということだが、それは達成されたということなのか、新ごみ処理焼却場の建設があるので、もともとの目標はもうどうでもよくなったのか、そのあたりを教えてほしい。
- (事務局) 平成 9 年当時はプラスチック類を計上していたが、現在はそれをしていないということで 57 g が達成されているということになっており、大きなところでみると、達成されていると考えている。焼却場の埋め立て量については、新ごみ処理施設の建設までは余裕がある。57 運動は開始当初のまま、延命化を謳ったのぼりがあるが、現在は江南市の施策の一つとして謳っている。総合計画の審議会では、57 g が達成されているのであれば、57 g というネーミングはやめて違う新たな内容についても違った展開をしたほうがよいのではという意見だった。可燃ごみ袋の中の成分調査をすると、ここ 10 年ぐらいなかなか減らないもので、生ごみについてはこれ以上減らすことは難しいと思う。本来生ごみではないもの、混入している資源ごみを減らすことが可燃ごみの減量の大きな方法になるのではないかと思う。今回相談したかったのは、大きな意味での内容やネーミングについてだった。
- (委員) 総括が必要だと思う。20 年間取り組んできた結果を知りたい。
- (事務局) 総括として、ミクロでみると達成していない、マクロでみると達成した。57 g は達成しているというのが環境課の総括。
- (委員) 可燃ごみのなかで、あかちゃんや高齢者用おむつ、ペットシートなどもかなり大きな割合を占めていると考えており、水分を含んでいるため、かなり重い。1 市

2町で考えると、江南市の人口が一番多いから、排出量も多く負担するお金も高い。

(事務局) 委員のほうからは貴重な意見をもらった。今後の検討材料にしていきたい。

(事務局) 江南丹羽環境管理組合の会議の中でごみを10%減量すると、年間約1,700万円のお金が減るという試算が出たが、浮いたお金で環境行政により取り組むことがよいのではないか。それくらいを目標に、何%削減できるかわからないが、取り組んでいきたい。啓発だけでは進まない。具体的に何かしないと減らない現状がある。

(委員) ここ数年ごみの排出量が大体同じ量で排出されおり、これよりも10、20g減らすことができるというのは到底考えられない。

■議題2 環境フェスタ江南2017について

(事務局) 資料2ページから17ページについて説明

(委員) 2階の環境対策グループが行う環境アドバイザーのブースについて、座学を市民の方に事前にわかってもらい、申し込みをしやすくするような工夫はされていないのか。

(事務局) 担当グループが異なっており、また担当者に話をきいておく。どのように環境対策グループのブースが取り組むのかについては、環境対策グループに確認する。

■議題3 視察研修について

(事務局) 資料18ページから19ページについて説明

■議題4 その他

①「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」について

②リサイクルステーションの収集品目の拡充について

(事務局) 資料20ページから21ページについて説明

(委員) 回収品目とあるが、延長コードとあるが、これまでは鉄類などと一緒に集めていたが、これからは集めてはいけないということか。

(事務局) 延長コードについては、地区の資源ごみで回収しても特に構わない。使用済み小型家電の品目になっているものについては、地区のほうでも回収できる。パソコン類以外は、地区での回収もできるが、携帯電話などは個人情報があるため、地区のほうでは出しにくいのではないかと。資料に記載されている公共施設のボックスに出してもらえればと思う。延長コードなどは使用済み小型家電回

収ボックスに入れてもらえれば、使用済み小型家電から東京オリンピックでのメダルに再生される。

(委員) 個人情報がないものについては、地区の資源ごみステーションに排出してもよいということで理解した。